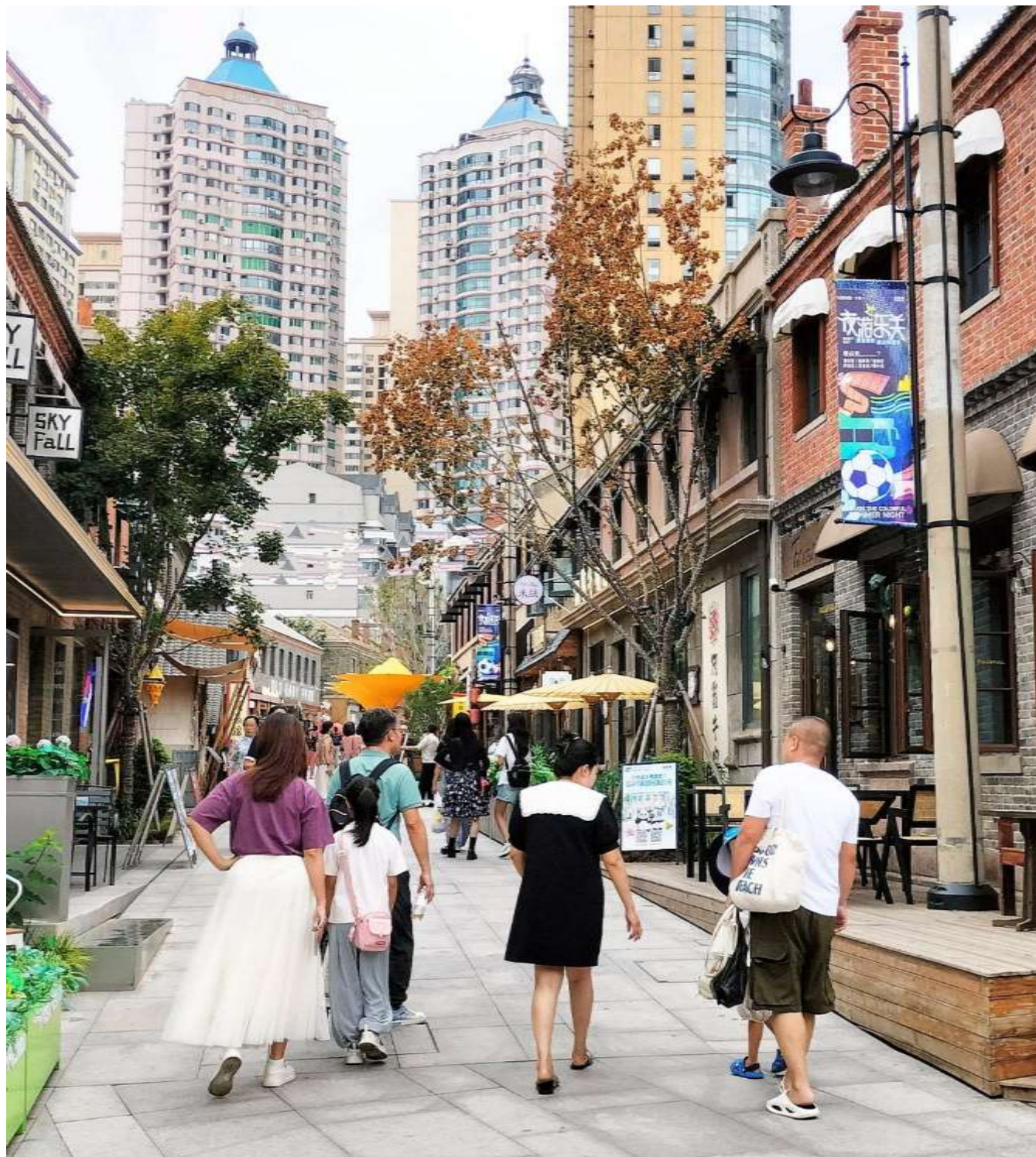




316号
2026/9

日中文化交流市民サークル'わんりい'
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195
<http://wanli-san.com/>
Eメール:t_taizan@yahoo.co.jp



大連・東関街：大連駅前の長江路を西に1キロほど行った左側一帯「東関街」は近年 City Walk の新しい観光スポットとして整備されている。古い町並みを残す形で、洒落た飲食店、商店などが軒を連ねており、内外の観光客あるいは昔を懐かしむ地元の人々で賑わっていた。

(2025年8月、遼寧省大連市にて 村上直樹)

‘わんりい’ 2026年9月号の目次は最終ページにあります

水を飲んでも潤わないのはなぜ？

～中医学で考える「津液」の話～

ちょう てき
趙 迪

夏になると、「水を飲んでいのに、のどが渇く」「肌が乾燥する」「唇が荒れやすい」と感じることはありませんか。

暑い季節には水分補給が大切だと言われている。しかし、十分に水を飲んでいても、体の乾燥が気になる方は少なくありません。「年齢のせいかな」、「エアコンで乾燥しているからかな」そう思うこともあるでしょう。もちろん、それらも原因の一つです。しかし中医学では、こうした状態を単なる「水分不足」とは考えません。体を内側から潤す働きを持つ「津液」が不足している可能性があると考えます。今回は、夏の健康と深く関わる「津液」についてお話ししたいと思います。

■「津液」とは何でしょう？

中医学では、人の体は「気・血・津液」のバランスによって健康が保たれていると考えます。これは、二千年以上前にまとめられた中国医学の古典『黄帝内経』にも記されている、人と自然の調和を大切に考える考え方です。

前回は、体を動かすエネルギーである「気」についてお話ししました。

今回は、「津液」についてです。

「津液」という言葉は、初めて聞く方も多いかもしれません。簡単に言えば、体を潤す大切な水分です。中医学では、津液には「体を潤す」だけでなく、「体内の各部分を養い、正常な働きを支える役割がある」と考えられています。ただし、ここでいう水分とは、飲んだ水そのものではありません。私たちが食べたり飲んだりしたものは、胃腸で消化吸収され、体の中で利用できる形になります。食べ物や飲み物から作られ、体を潤し養う体液を「津液」と呼びます。例えば、唾液、涙、皮膚や粘膜を潤す水分、関節の動きを滑らかにする液体なども、津液の働きと考えられます。一本の植物が太陽の力、栄養、水分によって育つように、人の体も「気・血・津液」によって健康が保たれているのです。ど

れも生命を維持するために欠かせない大切なものです。

■夏はなぜ津液が不足しやすいのでしょうか？

夏になると、私たちはたくさん汗をかきます。汗は体温を調節するために必要な大切な働きです。しかし中医学では、汗をかくと水分だけではなく、体を潤す津液も消耗すると考えます。暑い日に外で活動した後、「体がだるい」「口が渇く」「肌が乾燥する」と感じるのは、そのためです。さらに現代の生活では、冷房の使用も欠かせません。冷房による乾燥した空気は、肌やのどの潤いを奪いやすくなります。また、冷たい飲み物やアイスクリームを摂り過ぎると、胃腸の働きが弱り、体の中で水分をうまく利用できなくなることがあります。

中医学では、胃腸の働きは「脾(ひ)」と深く関係していると考えます。

脾は、食べ物から気や津液を作る大切な役割を担っています。中医学では、「脾は後天の本(こうてんのほん)」と呼ばれ、食べ物から体に必要なエネルギーや栄養を作る大切な臓器とされています。そのため、夏の過ごし方は、単に水を補うだけではなく、胃腸を整えることも大切なのです。

■水を飲めば体は潤うのでしょうか？

「それなら、たくさん水を飲めばいいのでは？」そう思う方もいるでしょう。もちろん、適切な水分補給は大切です。しかし中医学では、重要なのは「飲んだ水が体に必要な形で利用されること」だと考えます。胃腸の働きが弱っていると、水分を十分に吸収・運ぶことができません。その結果、水は飲んでいのに、体の潤いが足りない。という状態になることがあります。つまり大切なのは、量だけではなく、体がその水分を活かせる状態にあるかどうかなのです。

■津液が不足すると現れるサイン

中医学では、体の潤いが不足した状態を「津液不足」と考えます。その時、体にはさまざまなサ

インが現れます。例えば、のどが渇く、唇が乾燥する、肌がかサカサする、目が乾きやすい、便秘になりやすい、空咳が出る、声がかすれるなどです。これらは、体からの「潤いが足りません」というサインかもしれません。もちろん、症状が続く場合は医療機関に相談することも大切です。しかし、季節による一時的な乾燥であれば、毎日の食事や生活習慣を見直すことで改善が期待できます。

■夏におすすめの「体を潤す食材」

中医学では、「医食同源」という考え方を大切にしています。特別な薬だけに頼るのではなく、毎日の食事の中で体を整え、失われた潤いを補っていくことも大切な養生です。

夏には、旬の食材の中にも体を潤す働きを持つものがたくさんあります。

【肺を潤す食材】

ここでいう「肺」とは、現代医学の肺だけではなく、中医学においては、のどや鼻など呼吸器全体の働きや、体の潤いとも関係する概念です。

●梨：昔から「肺を潤す果物」として知られています。のどの乾燥や空咳が気になる時におすすめです。

●白きくらげ：体に潤いを与える代表的な養生食材です。乾燥しやすい季節だけでなく、夏のエアコンによる乾燥対策にも向いています。

●れんこん(蓮根)：れんこんは秋冬のイメージがありますが、中医学では肺を潤し、乾燥を和らげる食材として知られています。加熱すると胃腸にもやさしくいただけます。

【夏の熱を冷まし、津液を補う食材】

●トマト：体の熱をやわらげながら潤いを補います。スープや炒め物にすると胃腸にもやさしくなります。

●きゅうり：水分が豊富で、暑さによるほてりをやわらげます。ただし冷えやすい方は食べ過ぎに注意しましょう。

●冬瓜(とうがん)：夏の代表的な薬膳食材です。体にこもった熱を冷ましながらか水分代謝を助けます。日本では煮物やスープにすると食べやすいでしょう。

●スイカ：夏を代表する果物です。体の熱を冷まし、水分を補う働きがあります。ただし食べ過ぎると胃腸を冷やしやすいため、適量を心掛けましょう。

【胃腸を整え、津液を作る食材】

●山芋：胃腸の働きを助け、食べたものから気や津液を作る力を支える食材です。夏バテで食欲が落ちた時にもおすすめです。

●豆腐：消化しやすく、体をやさしく潤します。暑い日でも食べやすい食材です。

【自然な甘みで潤いを補う食材】

●はちみつ：のどを潤し、腸をしっとりさせる働きがあるとされています。乾燥による便秘が気になる方にもおすすめです。

●百合根(ゆりね)：百合根は肺を潤し、心を落ち着かせる食材として古くから薬膳に用いられてきました。乾燥による咳や、不眠が気になる方にもおすすめです。

●梅：梅は日本の夏になじみ深い食材です。中医学では、酸味には体を引き締め、汗などによる津液の消耗を防ぐ働きがあると考えられています。

上記「夏にお勧めの食材」を使った薬膳のレシピは、誌面の関係で割愛しますが、次回薬膳料理講習会でご紹介することにしましょう。

■潤いのある体で夏を過ごすために

中医学では、治療よりも予防を大切にします。体の不調が出てから対策するのではなく、日頃から体を整えておくことが重要です。十分な睡眠をとる。冷たいものを摂り過ぎない。旬の食材を楽しむ。胃腸を大切にすること。こうした小さな積み重ねが、夏を健やかに過ごす力になります。

中医の観点から「水分補給」という言葉は、単に水を飲むだけではなく、体の中で潤いを作り、保つことを大切にします。そのためには、津液を作る源となる胃腸(脾胃)を大切にすることも重要です。

暑さが厳しい季節だからこそ、自分の体からの小さなサインに耳を傾けてみませんか。

来月は体調のバランス三要素の一つ「^{けつ}血」についてお話しします。

前回(2026年7月号)で触れた中国映画『給阿嬤的情書』が東京の新宿3丁目にある「シネマート新宿」で短期間、劇場上映された(邦題:おばあちゃんへのラブレター)。すでに22dyy.comによりスマホ画面では見ていたが、あらためて7月1日に出かけた。330席ほどの館内はほぼ満員だった。字幕は中国語と英語のみということもあって(セリフは方言の潮汕話)、ほとんどが華人・華僑の人たちだったと思う。ネットで調べて分かったことも含め、7月号の記述を少し補足・訂正したい。前号では葉淑柔は「何十年もの間」夫(鄭木生)からの恋文と仕送りだけを支えに暮らしてきた、と記した一方、謝南枝は「18年間に亘って」亡くなった鄭木生の代わりに手紙と仕送りを続けていた、と書いてしまった。この年数不一致について正しくは以下のとおりである。

映画は葉淑柔の88歳の誕生日パーティーに孫の曉偉が駆けつける場面で始まる。設定年次は2018年である。その後、曉偉は祖父の鄭木生がすでに1960年にタイで亡くなっていたことを突き止める。場面は回想に移り、木生に代わって手紙と仕送りを続けてきた謝南枝も1978年にそれを止めようと決心し、葉淑柔に手紙を書いて18年間の経緯を告げようとする。しかし、郵便事故により手紙は届かず、届いたのはすでに木生が南枝と新家庭を築いているかに見える写真のみであった。そのため誤解した葉淑柔はそれ以後40年間、木生(実は南枝)に手紙を出さず、両者は音信不通となってしまう(2018年)に至る。いずれにしても多くの名画同様、この映画にも謎解きのおもしろさがある。

ここからは、前号に引き続き今年(2026年)4月12日(日)の深圳に戻る。この日は「甘坑古鎮」を見学した後、午後は深圳市内で最も繁華な商店街「東門老街」(正式名称は東門商業步行街)へ直接行ってみた。ここは総面積17.6万平米に及ぶ步行街(歩行者天国)である。地下鉄3号線「老街」駅の出口Aから地上に出ると、すぐ横にあまり目立たない「東江遊撃隊指揮部旧跡」という建物があった(写真参照)。事前に調べていなかったの、うっかり通り過ぎる



東江遊撃隊指揮部旧跡 (2026年4月撮影)

ところだった。入口の左側には「深圳博物館」の看板も掛かっている。

入場は無料で、2種類の展示があった。まず、その1つ「葉挺將軍与(と)深圳」を見る。葉挺(1896-1946)は1919年以来、孫文が主導する革命・武装蜂起、さらに北伐にも参加し、1938年1月には「新四軍」の軍長に任命された。その後1938年10月に日本軍が広州を占領すると、深圳において短期間にこの地域の抗日勢力をまとめ上げ統一指揮した(場所がこの旧跡である)。その活躍は内外に注目されることとなり、華南地区における抗日戦争で中核的役割を担うようになる。しかし、1941年1月に起きたいわゆる「皖南事变」により国民党軍に拘束されてしまう。抗日勝利後の1946年に救い出されるものの、不幸にも同年4月8日、重慶から延安に向かう飛行機の事故により、家族、仲間(「四八烈士」)とともに亡くなってしまう。

もう1つの展示は「深圳歴史中的墟」と題するものである。「墟」とは、嶺南地方における伝統社会の一大特色である。まず、決まった日時と場所で周辺住民が定期的に交易を行うことから始まり、やがて常設の店舗が出来て、日用雑貨、農畜産物、工業製品が売買されるとともに、金融、宿泊サービスなども提供されるようになって町が形成される。現在の深圳市に当たる範囲には歴史的に大小100近い墟が出現し、展示ではそのうち代表的な14の墟が紹介されていた。とくに深圳市の名前の元となった「深圳墟」に

ついで、明朝中期に現在のここ東門一帯の 10 以上の村が交易を始め、明朝後期に墟（深圳墟）を形成したことが、清朝の康熙 27 年（西暦 1688 年）に著された『新安県誌』に記録されている。東門老街が現代的繁華街として整備され注目されるようになったのは 2000 年代に入ってからであるが、その交易の場としての歴史は 500 年に及ぶことがわかり、大変興味深かった。

今回の深圳一人旅の最後の見学地は「大芬油画村」である。帰国前日の 4 月 14 日に出かけた。最寄りの地下鉄 3 号線「大芬」駅で降り、A1 出口から地上へ。「大芬社区文化宣传栏」という看板があり、簡単な紹介が書かれていた。「大芬油画村」は全国最大の油画（油絵）の生産、取引拠点で、かつ世界的に重要な油絵の取引市場である。最盛期には、欧米の油絵の 70% が中国産であり、その内 80% が大芬産だった、とある。中心地域の面積は約 0.4 平方キロメートルで、そこに 400 名以上の画家のアトリエのほか、1,200 以上の画廊・芸術機構、100 社に近い企業が集っている。関連従事者は約 8,000 人に上る。

写真にあるように、通り沿いに並ぶ低層ビルの 1 階部分に入る店舗には画材など油絵に関するものは何でもそろっている。絵画体験、美術教育などの施設もある。おもてで実際に絵を描いている人も多数見かけた。「大芬美術館」という新しい近代的な建物もあったが、「村」全体が巨大な美術館とも言える。油絵以外に中国画、書、篆刻などの店もある。書道関連の店で少し話し込む。日本では「書」が学校、ホテル、病院などいろいろなところに飾られているのか？と聞かれたので、そのとおり、と答える。また、日本



大芬油画村（2026 年 4 月撮影）



太陽山芸術中心（2026 年 4 月撮影）

では小・中学生が書道（習字）を必ず学ぶことになっていると教える（中国の事情はどうなのか？）。

「大芬油画村諮詢服務中心(センター)」と書かれた案内所に入る。説明員の女性がこの「村」の見どころなどを紹介してくれた。外国人が見学に来ることを歓迎すると言っていたので、日本人でもいいのか？と聞き返すと外国人なら誰でも構わないとの答え。顔を入れないなら、と写真撮影に応じる。広報にでも載せるつもりなのかもしれない。ここを出て、教えてもらった「太陽山芸術中心」に向かう。ここは書道関連で、陳求之氏という書家の仕事場と展示室を兼ねた施設であり、旧建築物を再利用している（写真参照）。入場料は 20 元。説明員がスマホの音声通訳機能を利用して案内してくれた。建物の構造、調度品も書、彫刻など芸術品と一体化した空間を作っている。陳氏の作品は「激揚文字」と表現され、伝統的な書とは違う、より自由な創造性を備えた芸術的試みである。ただし、よく見ると読める（対応する楷書の文字がわかる）という点で、いわゆる前衛書とは違うように感じた。ビジネス的な展開も重視しているようで、パンフレットにはビジネスパートナーとして BMW、華為といった内外の著名企業、銀行、大学が名を連ねていた。記念品売り場があり、陳氏のデザインによる小さな本型ランプの置物を買う。198 元を 100 元紙幣 2 枚で支払おうとすると（スマホ決済が普通なので）2 元の釣銭がなく、代わりに陳氏の自筆による「福」の字が書かれた色紙をくれた。2 元より価値が高そうだ。

■参考資料：『百度百科』他。

晩秋のカラコルムにて (17)

ウランバートルへの帰路よもやま(7)

吉光 清

7月に入ってから、某民法テレビ局のチャンネルや有料チャンネルで放送予定番組のコマーシャルが頻繁に流されていた。その番組とは「VIVANT(第二シーズン)」(7/26放送開始)である。

前作の「第一シーズン」は2023年7月～9月の「日曜劇場枠(午後9時～)」10話シリーズで放映されたが、豪華な俳優陣、海外ロケ、予測不能なストーリー展開が評判を呼び、総視聴人数は6000万人超え(「ビデオリサーチ」調べ)という驚異的な数字を残したという。ここで報告させていただいているモンゴル旅行は「第一シーズン」放映の1年後だったが、旅行途中の車内で旅行ガイドさんから「『ビバン』は観ましたか?」と訊かれ、何のことか分からず、説明を受けて了解し「観ていない」と答えたら、呆れたような顔をされた。「VIVANT」のためのロケが、モンゴル国内で大掛かりに行われたことは衆知のことらしかった。

帰国してから、「第一シーズン」全話をまとめて観たが、どんでん返しのストーリー展開もさることながら、モンゴルの自然景観、風物が圧倒的な印象を残し、絶大な効果を発揮していた。もっとも、物語の舞台はロシアとモンゴルに国境を接する「(架空の)バルカ共和国」という設定であった。

■「210」番ゲルの入り口は二重になっていた

時刻は18時を回っていた。マイクロバスは敷地内の車道を走り、それぞれのゲルに繋がる短い側道に入り、「210番」の前で停車した。足元の階段を数段下りるとゲルの入り口だった。女性従業員の先導でゲルに入る。これまでに何度もゲルの入り口で頭をぶつけたが、頭を下げ気味にして、どうやらぶつからずに入ることが出来るようになって来た。

入り口を入ると、ゲル全体が玄関スペースだった。そこだけで、前日まで宿泊したゲルと同じくらいの広さだった。足元には沓脱ぎ用マットが置かれていて、そこで白いスリッパに履き替えた。厚めの模様入りの絨毯が敷かれており、正面には小さ



最初に入ったゲル内の様子、奥に続く扉が見える

目のストーブ、右側の壁際には、左右に肘掛けが付き、二つのクッションを載せたコーチがあり、待合室の機能も持たせているようだ。左側の壁際には、細長い小テーブルとそれを挟み、2つの腰掛けと、靴入れになりそうな木製家具が置いてある。しかし、ここにはそれ以外の家具は無く、正面奥に、もう一つの扉がある。

■2つ目の扉を開けて中に入ったら

簡単な説明を受けながら、その扉を開けて中に入ったら予想外の光景が目に入った。真正面の衝立が金色に輝き、その前に色鮮やかなオブジェが飾られている。天井の骨組み、左側のガラス窓から見える景色を見て、この部屋全体が巨大なゲルであることが理解された。床は心地よい木製で室内は快適な温度に保たれており、光量は抑え気味だ



2つ目の扉を開けたら広間、正面に金色の衝立とオブジェ



キングサイズのベッドが2台、仕切りは白いカーテン



草原が見渡せる、フロアより低くなった「くつろぎスペース」

が、照明設備があちらこちらに見えている。

入ってすぐの左側にバーカウンターがあり、ミネラルウォーター、インスタントコーヒー、スナックなどが置かれている。「カウンターの内側に設置されている冷蔵庫の中の飲食物以外は無料、フロントへの連絡は備え付けの電話で「555」である」と告げ、女性従業員は引き揚げた。

カウンターの上には、ゲル内部の見取り図が置かれていたが、夕食の迎えを呼ぶ前に、このゲルの室内を確かめようと、スーツケースも開けずに探索することにした。

■反時計回りにゲル内を一周して

右方向へ進むと、大きなベッドが2台並び、白い紗のカーテンを下げるようになっていいる。それぞれのベッドはキングサイズである。2つのベッドの間に電話機があった。その先の右奥のスペースはウォークイン・クローゼットで、鏡の付いた化粧台が置かれバスローブがぶら下がっていた。



ゲル内部の調度品・設備の配置

オブジェが飾られた大きな衝立の裏に瓢箪型のゆったりした大きさのバスタブが置かれていた。

三方向

に仕切り壁はなく、ここも白いカーテンを下げる方式になっている。カーテンを上げたまま入浴すれば、ガラス越しに草原が見渡せるようである。

バスタブと通路を挟んだ右側にはトイレとシャワールームがあり、両方とも扉付きの個室になっていた。それぞれの手前には大きな鏡付きの洗面台がある。

■さすが、リゾートの「くつろぎスペース」

「これぞリゾート！」と言うべきスペースがあった。ゲルの壁面がガラスの大きな展望窓になっていて、この時刻(18:17)、小雨模様にも拘らず、かなり遠くまで見渡すことが出来る。展望窓に近い一面はフロアより低くなっていて、小さな木製の階段を4段階降りなければならないようになっている。そのお蔭でバスタブに浸かりながら、この展望を楽しめる訳である。低い床面に置かれたローテーブルと窓際の間には結構、距離があるので、その床に寝転がって、空や星を眺めたら最高だろうと思われた。空調の吹き出し口があって寒さの心配も無さそうである。ゲルの中だというのに、この広さ(120平米)と充実した設備はリゾート地のハイクラスのホテルに優るとも劣らないことを実感した。筆者が旅先で宿泊した中では、間違いなく3本の指に入るだろうと思った。

時刻を確かめたら18:55だったので、スーツケースから夕食の服装のための衣服を出して着替え、「555」に電話して迎えの車を頼んだ。車が来たので、入り口の施錠をして乗り込んだ。雨が少し強くなっていたが、上下ともに防水仕様なので、傘は持たずに乗り込んだ。(つづく)

やっと父が、今年一番のお気に入り「夢で見たような最高の鶏」を選びました。足にひもを結んで袋に入れ、持ち帰る準備をします。さて、もう一つ大事な買い物があります。それは「灶糖（ザオタン）」というお菓子です。

「灶糖」とは、農村で小麦を蒸して煮詰め、発酵させて作る麦芽糖のことです。基本の麦芽糖はどろっとした茶色ですが、何度も引っ張り伸ばすことで白く、そしてサクサクとした食感になります。最後に小さなカボチャの形に切り、地域によっては赤い色を添えておめでたい感じを出します。子供の頃、この灶糖は最高の思い出のお菓子でした。口に入れるとしっかり歯にくっついて、ねちゃねちゃ、ねちゃねちゃ…よだれが出るほど甘い。本当に美味しいんです。

この灶糖がとても「ねばつく」ことから、人々は必ず祭りの日にたくさん買って、灶神¹⁾様に捧げます。神様の口を甘くし、天に昇って玉皇大帝（神様の頂点）に「良いこと」をたくさん伝えていただくためです。また、ねばつく糖で神様の口をふさぎ、この家族の欠点を言えないようにするのだとも言われています。民衆の知恵とは、こんなにも素朴で心温まるものです。

たくさんの買い物を抱えて、私たちは父と一緒に家に帰ります。次なる大切な任務は「鶏を締めること」です。多くの日本の方には恐ろしく聞こえる



灶神へのお供え物

かもしれません。しかし中国では「生け贄（いけにえ）」、とりわけ生きている鶏や羊、牛、魚などを捧げることは、数千年続く非常に神聖な儀式であり、古い中国の信仰なのです。

私の家では、この生け贄を捧げるのは父にとって一年で最も神聖な使命です。父は自ら丹念に大きな鍋で湯を沸かし、自分の手で鶏を締め、美しい羽根をむしります（手順は省略します）。ここで最も大切なのは、生きている鶏の首から出た「生きた血」を使って、その血を3本の羽根に付け、捧げることです。

母も忙しく動いています。半発酵の生地で、祭りのための「灶餅（ザオピン）」を12個、手作りします（ユダヤ教の習慣に少し似ています）。これは灶神様が天に昇る道中の携帯食です。

締めた鶏（丸ごと一羽であることが必須）、血を捧げた証の羽根に付けた生血、灶糖、そして地元産の果物4種（普通はリンゴ、ミカン、水晶梨、干し柿）、さらに土地ならではの菓子4種。すべての準備が整ったら、あとは「辰時（しんじ）」を待つだけです。

父が言うには、灶神様は「一更（いっこう）」、すなわち「戌時（じゅつじ）」、現代の時刻で言うと夜の7時から9時ごろに天へ昇り、良いことを言いに行くそうです。



麦芽糖を使った地方の灶糖



敬虔に祈っている父

私たちは早めに夕食を済ませ、一人ひとり丁寧に手を洗い、灶神様を祀るのを待ちます。

だんだんと空が暗くなり、時が近づきました。父はガスコンロの火を消し、その上に板を置き（必ずコンロの上に置くと言われています）、順に、大鶏、灶糖、捧げ物の果物やお菓子、灶餅を並べます。電気を消し、赤いろうそくに火を灯し、お香を焚き始めました。

ろうそくの光と煙の中で、父と母は代わる代わるひざまずき、心から灶神様にこの一年のできごとを語り、無事に過ごせた感謝を伝え、これからも



父は孫たちを連れて、爆竹を鳴らして灶神様を見送ります



マンションの隣の街角で一人唢呐(さない)²⁾を吹く老人の音は、私の耳には全て郷愁のものだ。

礼儀を守り努力すると約束します。お辞儀を終えると、父は階下に降りて爆竹を鳴らし、灶神様の旅立ちを見送ります。

私はそばで、両親の真剣で祈る姿を見て、胸が熱くなりました。子供の頃は、祭りの後に灶糖を食べられるから嬉しかったのです（物の少なかった時代、一年に一度、好きなだけお菓子を食べられる日がこの日だけでした）。大人になると、祭りは春節がもうすぐ来る合図で、お年玉が待ち遠しいものでした。今、中年になり年老いた両親が祀る姿を見て思うのは、もしかしたら現代社会ではこうした古い伝統はすたれてしまうかもしれませんが、両親が守り続ける習慣には、伝統的な中国の人々の「家への信仰」が込められているということです。

それは、遠くに嫁いだ私のような子どもたちにとって、最も深い心のよりどころでもあります。

今、窓の外からは遠くで断続的に爆竹の音が聞こえてきます。どの家でも灶神様を天に送り出し、良いことを言ってもらおうとしているのです。

■注記

- 1) 灶神:「灶神は家庭の一年分の行いを報告に行く」という視点は、す「日本での年末の煤払い（すすはらい）やお歳暮を贈る習慣」とどこか通じるものがあり、興味を持ってもらいやすいかもしれません。
- 2) 唢呐(さない):中国の伝統的な楽器です。金属の筒と木の管でできていて、先が喇叭のように広がっています。地方によって曲調が違い、哀愁のある音色も出せるため、聞く人々に、故郷への郷愁を強く感じさせる楽器となっています。

『水調歌頭（明月）』蘇軾

本田 幸枝

■はじめに

今年の十五夜、中秋の名月は9月25日です。中国では中秋節を「団圓節」とも言い、家族団らんして過ごし、満月のように全てのことが円満に行くよう願う行事だそうです。

今回は950年前、1076年の中秋に作られた詞^ツを紹介します。絶句や律詩などの“詩”が文学であるのに対し、詞はもともと歌の歌詞です。例えばテレサ・テン(鄧麗君)の曲やドラマ『贅婿』^{ぜいせい}のエンディングテーマ曲などに乗せて、今もこの歌詞が歌われています。お手元のスマートフォンでもこれらのミュージックビデオが見られます。これほど時代が変わっても、変わらず愛され続けている詞です。お楽しみください。

【原詞】

shuǐ tiáo gē tóu sū shì
水調歌頭 蘇軾

míng yuè jǐ shí yǒu
明月幾時有
bǎ jiǔ wèn qīng tiān
把酒問青天
bù zhī tiān shàng gōng què
不知天上宮闕
jīn xī shì hé nián
今夕是何年
wǒ yù chéng fēng guī qù
我欲乘風歸去
yòu kǒng qióng lóu yù yǔ
又恐瓊樓玉宇
gāo chù bù shèng hán
高處不勝寒
qǐ wǔ nòng qīng yǐng
起舞弄清影
hé sì zài rén jiān
何似在人間

zhuǎn zhū gé dī qǐ hù zhào wú mián
轉朱閣低綺戶照無眠
bù yīng yǒu hèn
不應有恨

hé shì zhǎng xiàng bié shí yuán
何事長向別時圓
rén yǒu bēi huān lí hé
人有悲歡離合
yuè yǒu yīn qíng yuán qiàn
月有陰晴圓缺
cǐ shì gǔ nán quán
此事古難全
dàn yuàn rén zhǎng jiǔ
但願人長久
qiān lǐ gòng chán juān
千里共嬋娟

【書き下し文】

水調歌頭

明月 幾時よりか有る
酒を把りて 青天に問う
知らず 天上の宮闕
今夕は是れ何れの年なるかを
我 風に乗りて帰り去かんと欲するも
又恐る 瓊樓玉宇の
高き処 寒に勝えざらんことを
起ちて舞い 清影を弄すれば
人間に在るに何似ぞ

朱閣に転じ
綺戸に低れ
眠り無きを照らす
応に恨み有るべからざるに
何事ぞ 長えに別時に向いて円かなる
人に悲歡離合 有り
月に陰晴圓欠 有り
此の事 古より全きこと難し
但だ願わくは 人の長久にして
千里 嬋娟を共にせんことを

【訳詩】 丸い月夜

丸い月を 見上げてると
思う月は天に何年と
杯を 挙げて聞くよ
月の都今宵何年と
帰りたいよ 思うけれど
月の宮は高く寒いでしょ
だからいっそ 立って踊ろう
くるり影と遊ぶこの地上よい所

あけ ろう
朱の楼を巡り 透かし扉覗き
寝れぬ人を照らす丸い月
月が人を恨み なんてはずもないが
なんでこうも満ちた丸い月
人は出会い 別れに泣き
月は欠けて満ちるまんまるに
これは古来 変わらない
天の決まりだからただ祈るよ
ずっとずっと 健やかでと
離れてても同じこの月を見ようねと

■詞について① ～なぜ字数がバラバラ？～

カッコリ四角い律詩や絶句と違って詞は字数がバラバラで、なんだかよく分からない……というのが私の第一印象でした。でも植田先生は詞がお好きでしたね。めげずに調べてみたら、実はとても面白かったので紹介します。

まず押さえておきたいのは、詞は「曲に合わせて作る歌詞」であり、定型である、という点です。曲のリズムに合わせて言葉を当てはめていくため、結果として字数が長短バラバラに見えるということです。

タイトルの『水調歌頭』はその曲名です。『水調歌頭』という曲に合わせて歌えるよ、という意味です。もっと言うと『水調』という隋の頃に作られた“クラシック”の大曲の頭の旋律で歌えるよ、ということです。例えば平原綾香の『Jupiter』（ジュピター）は『惑星』という大曲の一部、「木

星」の旋律に歌詞をつけた曲ですよね。それと似た感じかなと想像しています。

元になった『水調』および蘇軾の時代の『水調歌頭』の曲は失われてしまって聴くことができませんが、代わりに現代になって作られた曲があります。この歌詞に合わせて作られた曲なのでぜひ聴いてみてください。長短バラバラに見えた字数もすっとんと理解できるように思います。加えて押韻箇所もなんとなく分かります。もちろん当時と現代語では発音が違うでしょうが、それでも面白いです。ただし、四声や平仄は分かりません（笑）

■詞について② ～平仄と韻～

字数のほかにも「平仄」という決まりごとがあります。漢字の発音に由来するもので、それぞれの漢字が平または仄に分類され「何文字目を平にする／仄にする」「何文字目で押韻する」が決まっています。このルールは元になった曲ごとに決まっています。型と実際の作品とを見比べながら読むと楽しみが増すので、まずは『水調歌頭』の基本形を見てみましょう。

『水調歌頭』の基本型

××××●, ×●●○☆。
×○○●, ××○●●○☆。
×●×○×●, ×●×○×●,
×●●○☆。 ×××○●, ×●●○☆。

×××, ××●, ●×○。
×○×●, ×●×●●○☆。
×●×○×●, ×●×○×●,
×●●○☆。 ×●×○●, ×●●○☆。

ここでは、平を○、仄を●、どちらでもよい場所を×、平で押韻する箇所を☆で示しました。すべてを追うのは大変なので、今回は網掛けに注目してください。「●●○☆」が繰り返し登場することが分かります。この「●●○☆」が、『水調歌頭』の特徴です。

さて蘇軾の『水調歌頭』を見ていきましょう。

蘇軾の『水調歌頭』の平仄

明月幾時有	把酒問青天	
○●●○●	●●●○☆	
不知天上宮闕	今夕是何年	
●○○●○○●	○●●○☆	
我欲乘風歸去	又恐瓊樓玉宇	
●●○○○★ ¹	●●○○●★ ¹	
高處不勝寒	起舞弄清影	何似在人間
○●●○☆	●●●○●	○●●○☆
轉朱閣	低綺戶	照無眠
●○○	○●●	●○☆
不宥有恨	何事長向別時圓	
●○○●	○●○●●○☆	
人有悲歡離合	月有陰晴圓缺	
○●○○○★ ²	●●○○○★ ²	
此事古難全	但願人長久	千里共嬋娟
●●●○☆	●●○○○	○●●○☆

ここでは平仄のルールがある箇所には下線をしました。下線の箇所、つまり平仄はきっちりルール通りです。字余りや字足らずもなく、字数ぴったりです。美しいですね。ただし3・4句の区切れは少し変則的です。基本形は「4文字・7文字」ですがこの詞では通例「6文字・5文字」として読まれています。なお、この箇所の区切れ違いは許容されるようで、蘇軾以外の作にも区切れ違いが見られます。曲の都合で融通が効いたのかもしれません。

5・6句の★¹と、15・16句の★²に注目してください。基本形にはなかった仄の押韻があります。必須でない箇所での押韻があると、読者としてはワクワクしますよね。資料によってはこの仄の押韻が解説されていないものもありましたが、比較的新しい日本語の資料や中国語の解説サイトでは紹介されていました。

ところで11・12句にも「●●○☆」の形があります。なぜ“基本型”に含まれていないのか不

明ですが、ここは「●●○☆」の形に作るのが通例のようでした。個人的にはここは「●●○☆」が“基本型”と解釈すると前半と後半がピタッと重なって理解しやすいな、と思います。

■訳詩について

訳詩するにあたっては、長短句混じりであること、前後編に分けられること、後編冒頭に3文字の句が連続する特徴的なリズムがあること、メインの押韻とサブの押韻があることなどを意識しました。

また韻については目で見た時の表記よりも、耳で聞き、声に出して歌った時の響きを優先しました。例えば「踊ろう」は「おどろー」という発音のつもりで作りました。「ところ」と合うかなと期待しています。

脚韻であることにはこだわらなかったのが結果としてカッコリ決まっていなかった箇所があります。「なんてはずも」「なんでこうも」などです。

なお「朱の楼」～「なんでこうも満ちた丸い月」を除いて、テレサ・テンの曲（梁弘志作曲の曲）の頭の旋律に合わせて歌えるようになっています。旋律を何回繰り返すかは調整が必要ですが、ぜひ声に出して歌ってみてください。「オ」や「イ」の響きが面白く感じられるか、悪目立ちして軽薄になっていないか、あるいはもっと韻を踏んだ方が面白い、など音の響きを感じただけなら嬉しいです。10月号では新しい曲も用意する予定です。

■李白との繋がり ～おわりに～

この詞は、李白の『月下独酌 其一』を踏まえて作られています。李白の詩は‘わんりい’312号（2026年4月号）でもご紹介しましたが、9月12日のNHKラジオ『漢詩を読む』でも取り上げられるそうです。十五夜を前に、李白から蘇軾へと受け継がれる「月」の詩情を味わうよい機会になりそうです。詳しいつながりは次回ご紹介します。9月25日の夜は、皆さまと同じ月を見上げられますように。

『イムジン河』に寄せて

和田 宏

「イムジン河（臨津江임진강）」は、北朝鮮の咸鏡南道から南北を分け隔つ北緯 38 度線沿いを流れ、韓国内を流れて黄海へ注ぐ、全長 254 キロの大河である。南朝鮮では「イムジン」と言うが、北朝鮮では「リムジン」と言い、発音がわずかに異なる。

♪イムジン河 水清く 滔滔と流る 水鳥自由に
群がり飛びかうよ 我が祖国 南の地 想いは
遙か イムジン河 水清く 滔滔と流る

『イムジン河』という歌は北朝鮮の歌である。北朝鮮の国歌『朝は輝け』の作詞者である朴世永（パク・セヨン）が 1957 年に作詞し、曲は高宗煥（コ・ジョンファン）がつけた。

歌手グループのザ・フォーク・クルセダーズ（北山修・端田宣彦・加藤和彦）が 1968 年頃、歌っていた『イムジン河』を筆者が聞いた時は、変イ長調で書かれた異国情緒あふれるメロディと、切ない歌詞に胸を打たれた。

元の 2 番の歌詞は、

♪悲しく水鳥は 南の岸で啼き 荒れた野良には
むなしく風が立つ 幸せ花咲く 祖国の北の歌
リムジンの流れよ 伝えておくれ♪

となっており、北朝鮮の方が進んだ良い国で、北朝鮮の優位を表しており、北朝鮮の武力による南北統一の意図を、望郷の念というオブラートにくるんだプロパガンダの歌だということになる。

〈朝鮮半島の南北分断〉

朝鮮半島は 1945 年 8 月の終戦までの 35 年間、日本の植民地として統治されていたが、第二次大戦の終末期に、2 つの原爆を落とされた日本の敗北は間違いなく見た狡猾なソ連が、1941 年 4 月に結んだ「日ソ中立条約」を一方的に破棄して 1945 年



38 度線と「臨津江」(Wikipedia)

8 月 8 日、日本に宣戦し、翌 9 日から満州や南樺太、千島列島、北方四島（択捉島・国後島・色丹島・歯舞群島）、更に朝鮮半島に進攻し、平壤（ピョンヤン）もあつと言う間に飲み込んだ。アメリカのトルーマン大統領は、ソ連の息が掛かった共産主義の国家が増えたら大変だと軍を送り、ソウル北方の北緯 38 度線で分断し、北部をソ連が、南部はアメリカが、それぞれ信託統治する分割統治案を提案し、ソ連共産党のスターリン書記長が受け入れ、朝鮮半島が南北に分断される始まりとなった。

終戦の 3 年後、半島南部では 1948 年 5 月 10 日に独自に総選挙が実施され、8 月 15 日、ソウルを首都として、「大韓民国」の樹立が宣言され、初代大統領として李承晩（イ・スンマン）が就任した。

一方、北部では、1948 年 9 月 9 日に、金日成（キム・イルソン）を首相とする政権が樹立され、「朝鮮民主主義人民共和国」が建国された。金日成は、亡命先のソ連から戻り中国共産党に入党。これで、朝鮮人による別々の国家が出来た訳である。

1950 年 6 月 25 日、突然、北朝鮮の軍隊が 38 度線を越えて南朝鮮に奇襲侵攻し、1953 年までの 3 年間、朝鮮戦争が起きた。この時、中国は毛沢東が 100 万人の人民解放軍を義勇軍として送り込んだ。一方、国連安保理決議に基づき組織されたアメリカ軍を中心とする国連軍（16 ヶ国）が南朝鮮側を応援した。国連軍の司令官はダグラス・マッカーサーだった。朝鮮戦争は一進一退を繰り返しながら膠着状態となり、1953 年 7 月 27 日、板門店で南朝鮮・アメリカと、北朝鮮・中国の 4 者によって、“休戦協定”が調印されたが、終戦に至らず、現在まで 38 度線沿いの軍事境界線を挟んで睨み合ったままである。「イムジン河」の作詞と作曲の二人は共に南朝鮮の出身だが、社会主義に憧れて北朝鮮へ渡り、南北分断が固定化した結果、南に戻れなくなってしまった。

〈北朝鮮への帰国運動と万景峰号〉

大戦前の日本には、朝鮮半島から多くの朝鮮人が

連行されたり、あるいは自主的に渡って来たりして、炭坑や土木工事などの労働仕事をしていた。1945年の敗戦時で、日本国内に居た朝鮮半島出身者は約200万人と言われている。朝鮮戦争も終わって、しばらく経った1958年8月、在日朝鮮人の北朝鮮への帰国運動が始まった。朝鮮戦争で痛手を受けた北朝鮮では、経済復興に欠かせない労働力が不足していた為、日本からの帰国者でそれを補おうと考えたのだ。

帰国運動の中心は在日本朝鮮人総聯合会（朝鮮総連）で、金日成からの指示である。“北朝鮮は地上の楽園”、“朝鮮の国は朝鮮人が作ろう”などと言うプロパガンダが喧伝されており、北朝鮮に帰る理由の一つには、日本国内での差別と貧困からの解消もあった。

日本と北朝鮮の両政府の了解と両国赤十字社の合意の下、1959年～1984年の25年間で、延べ180回にわたって総勢9万3340人が北朝鮮に渡り、その中には1800人の日本人妻を含む6800人の日本国籍者もいた。

北朝鮮籍の貨客船である「万景峰（マンギョンボン）号（9,600トン）」は、1971年から在日朝鮮人の帰還事業に使用された。船名は平壤郊外にある山の名前を取って付けられた。この万景峰号に乗って、朝鮮人達は新潟港から北朝鮮に帰国した。

1988年当時、42歳の筆者はNHK新潟局で勤務していたのだが、新潟県在日朝鮮人帰国協力会事務局長をしていた小島晴則氏（下右『最後の別れ』の著者）と知り合いになり、彼の誘いで、新潟西港に停泊していた万景峰号を訪問させて貰ったことがある。栈橋と船の間に架けられたタラップを登って、船内に足

を踏み入れたが、入り口には頑丈な体躯の船員が二人、仁王立ちしていた。私は、指を揃えた右手を顔の横に上げて敬礼をした。船員たちは全員が金日成（キム・イルソン）のバッチを胸に付け、金日成と息子の金正日（キム・ジョンイル）の二人の肖像が船室や食堂、通路などのあちこちに飾ってあり、笑顔を作って前を通り過ぎた。

食堂で簡単な食事を戴き、ほうほうの体で下船した。私の様なおっちょこちょいが、口が滑って北朝鮮の批判でも言おうものなら、捕まえられてそのまま北朝鮮へ連行されかねないからね（笑）。

〈「ボトナム通り」と帰国者からの連絡〉

新潟港の近くの国道沿いに「ボトナム通り」がある。ボトナムとは朝鮮語で柳のこと。北朝鮮に帰る船が出るのを前にした1959年11月、朝鮮人達が日本に住んでいた証として305本の柳の苗木を、通りに植樹した。小島さんも朝鮮総連の関係者や労働組合員など100人と一緒にスコップを手に植樹に参加した。ボトナム通りの由来を説明する記念のプレートには、「新潟県朝鮮人帰国記念ボトナム（柳）植樹」と書かれてある。柳は帰国者が託した友好親善のシンボルなのだ。

小島さんは万景峰号が出港する度、埠頭に立ち、「おめでとう」「お元気だね」「また会いましょう！」と叫んだ。船べりに立った朝鮮人達も「また戻るからね。ボトナム通りでまた会おう！」と笑顔を見せていた。3年も経てば日朝間の往来が実現すると信じていたのだ。北送第1船が出港してから3～4年も経つと、日本人妻からの手紙が届いた。「食べ物がない、着る服がない、送ってくれ」と、生活必需品を無心するものばかりだった。それらの手紙を読んだ小島さんは、“地上の楽園”という謳い文句とは正反対だった帰還事業の実情を知り、ボトナム通りで風にそよぐ柳の木を見る度、「柳が涙を流しているかのようで、切ない思いがし、実態も知らず、地上の楽園だなんて、よくもまあ、まことしやかにしゃべったものだ」と、自己批判にかられたのである。朝日新聞の2026年8月2日の朝刊には「パク・ソルメさんの現場思考“ボトナム通り”という、2ページに亘る大きな記事が載っていた。

〈『イムジン河』の発売を巡って〉



左：新潟西港の「万景峰号」

右：小島晴則著『最後の別れ』



左:喜多由浩著『イムジン河物語』 右:松山猛著『イムジン河』

京都市生まれの文学者・松山猛が、京都の朝鮮学校で偶然、耳にした『イムジン河』の歌を、作者不詳の古い朝鮮民謡と思い、元々あったハングルの1番の歌詞の日本語の訳詞をしたが、それだけでは短過ぎるので、朝鮮半島に生きる人々が抱える哀しみを想像しながら、2番と3番の日本語の歌詞を書き加えた。「ザ・フォーク・クルセダーズ（フォークル）」が歌うレコードを発売しようとしたところ、朝鮮総聯から、“この歌があたかも日本人が作曲したかのようであり、とても認められない。ちゃんと北朝鮮人の作った歌であると銘記しろ！”とクレームがついた。『イムジン河』の歌を巡る複雑な経緯は、喜多由浩の『イムジン河物語～封印された歌の真実～』や、松山猛の『少年Mのイムジン河』に詳しく書かれている。

〈映画『パッチギ』と『イムジン河』〉

2005年1月に『パッチギ（박치기）！』と言う日本映画が公開された。舞台は、1968年の京都。

パッチギは、朝鮮語で“頭突き”と言う意味があるほか、民族や立場の壁を“突き破る、乗り越える”という意味もある。この映画は、主人公である日本人の高校2年生男子が、京都朝鮮中高級学校の在日コリアンの女子との間に芽生える恋をバネに、朝鮮人への理解を深める青春物語である。日本社会と同化せず、独立した共同体を築く在日韓国・朝鮮人の社会を描いている。主要な役どころの俳優は日本人だが、エキストラには朝鮮総連の協力で在日朝鮮人が多数出演した。

主人公がサッカーの親善試合を申し込み、朝鮮学校を訪問した際、『イムジン河』の曲をフルートで吹いている少女に一目惚れする。主人公が通う高校の担任教諭が、毛沢東にかぶれ（筆者も同様だった）、

何かにつけて、小さな赤本『毛沢東語録』を取り出しては説教をする話も出て来るし、“社会主義の楽園”と喧伝された北朝鮮への帰国運動の話も出て来る。

この映画の音楽担当はフォークルのメンバーだった加藤和彦だった。

加藤は、表向きの活躍ぶりとは逆に、2度の離婚と1度の死別を経験して暗い孤独な私生活だった。躁鬱の症状持ちであり、2009年10月に、軽井沢のホテルで首つり自殺した。享年62歳。しかし、加藤和彦が作曲（作詞は北山修）して、映画の主題歌として提供した『あの素晴らしい愛をもう一度』は現在も愛され歌い継がれている。

〈横田めぐみさんと『つつじの花』〉

『つつじの花』という歌は、北朝鮮の金日成（「永遠の主席」）を讃える楽曲として歌われる。彼が抗日パルチザン活動を行っていた際、白頭山一帯に咲き誇るつつじを見て、祖国解放への決意を語ったエピソードが残っている。

『つつじの花』は作詞：徐一弘（ソ・イル・ホン）、作曲：全斗哲（チョン・トゥ・ Chol）。

♪いかだ流れる山深い 五個 渡し場に通う

小道がひとつ 土手には真っ赤なつつじが咲く
永遠に咲けよ つつじの花 アーアーアーアー
キムイルソン・チャングン（金日成将軍）は
つつじが好き つつじよ もっともっと赤く咲け
つつじよ もっともっと赤く咲け♪

新潟市立寄居中学校1年生だった横田めぐみさんは、1977年11月、北朝鮮に拉致された。

歌が上手なめぐみさんは、この歌を彼の地でよく唄っていたそうだ。北朝鮮に住んでから朝鮮語で習い覚えたのだろうが、『つつじの花』は、めぐみさんにとって、故郷を思って歌う「望郷の歌」なのだろうか。

完



映画「パッチギ」のポスター

名邸を訪ねる 東京武蔵野市:赤星鉄馬邸

福島 ひろこ
裕子

大学時代、住居学を学んだ。建築学的アプローチ・歴史文化的アプローチ、いずれにも興味を引かれた。今も住宅の建築図面を見ると、そこに住む人々の暮らしぶりを脳内でシミュレーションしてしまう。子育てと介護が一段落した今、同好の士と共に建築見学に足を運んでいる。今回は昭和初期に建てられた魅力的な邸宅を紹介したい。

◆モダニズム建築の傑作

昨秋、武蔵野市に広大な庭を持つ旧赤星鉄馬邸を仲間と見学した。敷地面積約 1350 坪、建築面積約 120 坪。1934 年竣工の鉄筋コンクリート造地階付き 2 階建て。チェコ出身の建築家アントニン・レーモンドが設計した。

成蹊学園キャンパスのすぐ近くにこの邸宅はある。道路から見えるのは玄関と建物のほんの一部だが、中に入るとその奥行きのに驚く。

玄関ホールはアールの壁のスリット状窓ガラスから柔らかな光が差し込む。そこにゆるやかなカーブを描く階段が設置されている。

1 階には広々としたリビングルーム・和室・夫人の寝室・子供部屋が続いている。玄関横の階段から 2 階に上がると、この館の主である鉄馬の書斎と寝室、2 階の奥にも子供部屋が何室もある。

1 階リビングの掃き出し窓から庭に出てこの館を振り返って見ると、その外観のバランスの取れた美しさに見惚れる。左右 40m にも及ぶ建物の窓が横にリズムカルに連なる。

◆レーモンド夫妻の共作

アントニン・レーモンドの妻、ノエミはインテリアデザイナーでこの邸宅の造り付け家具はノエミがデザインした。夫人のクローゼット・子供部屋の収納、いずれもシンプルで機能的だ。2 階の飾り棚は背板に小さい円が規則的にくり抜かれ、後ろの窓から外光を取り込める仕掛け。そこに飾られた物たちはさぞ見映えしたに違い無い。

アントニン・レーモンド（1888～1976）はチェコのプラハ工科大学で建築を学んだのち渡米。そ



赤星鉄馬邸全景

こでノエミと出会い結婚する。1919 年、フランク・ロイド・ライトが帝国ホテルの仕事のために来日した折に助手として来日した。1922 年に独立しレーモンド事務所を開設した。第二次世界大戦が激しさを増したためいったん帰国するが、戦後再び日本に帰って来て、モダニズムの理念に基づく優れた建築を数多く残している。

彼の代表作は東京女子大学講堂、聖路加国際病院、群馬音楽センター、軽井沢の聖パウロ・カトリック教会、教文館・聖書館ビル(銀座)など。

◆赤星邸の数奇な運命

この邸宅は第二次世界大戦末期に陸軍、戦後は GHQ に接収される。返還時には鉄馬はすでに亡くなっており一時期親族がこの館に暮らす、ノートルダム修道女会に売却される。その後、増改築が行われ、長く修道院として使われていたが 2021 年に武蔵野市に譲渡され、翌年に有形登録文化財に指定された。

多くの接収された建築物と同じように、この邸宅も接収時に設計者が激怒しそうな改造が加えられている。外観が白く塗装されているのは接収時の名残で、竣工時は杉板型枠のコンクリート打ち放し仕上げだったそうだ。レーモンドは無駄な装飾を嫌ったのだ。

加えてノエミのデザインした素晴らしい造り付け家具の一部は、接収時の住人の手により取り外され、持ち去られてしまったらしい。庭はやはり

接収時に完全に造り替えられたようだ。

◆赤星鉄馬の先祖・父・伯父

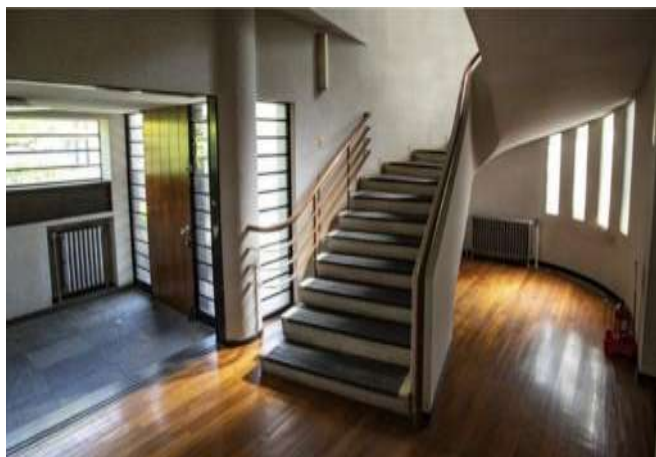
鉄馬の父と伯父について紹介したい。父の弥之助（1854～1904）は薩摩藩の磯永家の五男として生まれた。磯永家の先祖には幕府の暦官となった磯永周英と言う天文学者がいる。

弥之助の1才上の兄、彦輔も優秀でのちに長沢鼎を名乗る彼は13才の時に、薩摩藩が秘密裏に計画したイギリス留学生派遣に最年少メンバーとして選ばれる。彼はイギリスで高校に当たるギムナジウムから大学に学んだのち、アメリカに渡った。カリフォルニアの地で葡萄栽培とワインの醸造を成功させる。日本に帰国したのは32年後の45才の時だったそうだ。赤星家の甥たちがアメリカに留学する時には彼が現地の身元引受人となった。

弥之助は6才の時に赤星家の養子となり跡取りとして、優秀な兄に続こうと言う気概を持っていたのだろう。18才の頃に横浜に出て、鹿児島で既に学んでいた英語を生かして、洋学を主に教える私塾高島学校の教師をしていたらしい。

弥之助が世に名前を知られるようになるのは武器商人となってからだ。薩摩の人脈と海軍とのパイプを生かして巨万の富を築いて行く。妻の静は樺山資紀の姪で、樺山家との繋がりも弥之助のビジネスに大いに役立ったに違い無い。樺山資紀の息子が愛輔、孫娘が白洲正子だ。

弥之助は金に糸目をつけず美術品・茶道具を買い漁ったそうだ。そのやり方を「道具界の鰐魚」と揶揄されたようだ。鰐が口を開けて魚を食べ尽くす、そんなイメージだろう。隠居後は茶の道で粹人たちに肩を並べたいと思っていたらしい。しか



玄関ホール

し彼は50才で突然に亡くなってしまう。

◆相続後の鉄馬の生きざま

鉄馬は資産家の息子としてアメリカ、ペンシルバニア大学に学び青春を謳歌していた。父の死により急遽帰国し莫大な財産を相続する。一夜にして若き大富豪となった彼は世間から注目される。

父の死後10年目に起こった海軍高官への贈賄事件「シーメンス事件」では、彼は直接関係無いにも関わらず非難に晒される。翌年、鉄馬は父の蒐集品を売り払う。世に言う「赤星家売り立て」だ。鉄馬はこの時の売上金510万円（現在の貨幣価値で百億以上）のうち百万円を啓明会設立資金に充てた。しかも資金提供者としては、一切口出しする事が無かったそうだ。啓明会は2010年まで学術団体として研究助成事業を行っていた。

鉄馬は相続に伴う処理を全て終えてから再びアメリカに戻り、ペンシルバニア大学のビジネススクール・ウォートン校に学んだ。岩崎久弥やトランプ大統領の母校でもある。大学卒業後は帰国して志願兵となり、兵役の義務を終えた28才の時に、清野文と結婚。二人で世界一周の新婚旅行に出かけた。21才の美しい新妻は行く先々で注目されたらしい。人目を引く美男美女のカップルだったに違いない。

◆赤星家の住居遍歴

弥之助は鳥井坂の土地を購入して移り住んだ。今は国際文化会館となっている。元々は多度津藩（香川県）藩主の江戸屋敷だったが、井上馨邸となり、その後は久邇宮の邸宅だった所だ。

茶道具の蒐集でも知られた井上馨は八窓庵（茶祖村田珠光の遺物、東大寺塔頭四聖坊の茶寮）を鳥井坂に移築させ、そこで明治天皇の行幸を仰いで茶室移築披露を行っている。弥之助の関心はこの茶室にあったのかもしれない。

息子の鉄馬が受け継いだ鳥井坂の洋館は関東大震災で崩壊してしまう。彼は子供たちを成蹊学園に学ばせるつもりで、元々持っていた吉祥寺の土地に邸宅を建てることにした。それが今も残る赤星鉄馬邸だ。公開の時期は限られるが、建築マニア必見の邸宅だ。機会あらばご覧あれ。

みんなの広場

●徒然なるままに 夏の草刈りに思う

後藤芳昭

炎天下で人は萎えるが、雑草は勢いを増す。事情により、近くの公園の管理代表を4月から引き受けた。広さ 1300 m²で五つの塚（教育委員会の管理）と四つの花壇、ベンチが相当数あり桜の樹や高木の広葉樹もあり木陰もある。道路周りはツツジ群で文字通り憩いの場だ。担当以来、朝の森林公園までの従来の散歩コースにこの公園も組み入れた。

夏場に入り、雑草はたくましく勢いづき、公園の入口や通路、ベンチ周りなど、たどりつけない状態となる。花壇も毎日の水やりが必要。水道の水回りもケアが必要。代表一人では対応できないが、幸いベテランの近所の高齢者数人と一緒に管理している。

過日、炎天下で草刈りをした。この時期なので、最小限の通路、ベンチ周りだけとして作業時間も

2時間以内とした。草刈りは鎌ではなく混合油型の草刈り機2台だ。バッテリー型だと使用時間も20分、パワーもない。

大汗をかいて4人で木陰のベンチで一休み。草刈り後の景観を見ながらのお茶タイムは至福の一時だ。園内の風の何とすがすがしいことか！

更に言うと、この公園から遠い人がメンバーにいますが、バイクで参加してくれる。80過ぎの高齢者2人もメンバーだ。全てボランティアだ。みんな温かい。きっと自然の緑の力だろう。

数ある公園の中には土ではなくアスファルトで花壇のみ土という所もある。小学校のグラウンドもアスファルト仕様のところもある。とても残念なことだ。

人は、もっともっと緑に触れる、換言すれば、自然に触れる機会が必要ではないだろうか？

◇満柏画伯の漢訳俳句◇

旅の日の
いつまで暑き
彼岸花
白田亞浪

lǚ tú hé rì bù kù shǔ
旅途何日不酷暑,
bǐ àn huā kāi qiū yǐ lái
彼岸花开秋已来

韓鑫さんの俳句と AI に作らせたイラスト



中秋には月餅を
月餅講習会のご案内

今年の中秋節は9月25日です。偶然ではありますが、わんりいではこの日、久しぶりに月餅の講習会を開催します。実は先に9月9日を予定してお誘いをしておりましたが、途中で人手不足で準備が間に合わないことが判明、急遽開催日を変更して実施することになりました。その結果、場所の確保できた日が中秋節当日と言う嬉しい偶然となりました。

講習会は、下記要領で開催します。皆様ご都合をつけてご参加頂けると嬉しいです。

記

- 日 時：9月25日（金） 13：30～
- 場 所：川崎市麻生市民館 料理室
- 交 通：小田急線「新百合ヶ丘」下車 徒歩3分
- 会 費：2000円 月餅のお土産付き
- 持 物：筆記用具・エプロン・持ち帰り用容器
- 申 込：9月18日までに寺西代表まで

☎：044-986-4195

Email: t.taizan@yahoo.co.jp

≠≠≠≠≠≠≠≠≠≠

第22回「国際水墨藝術展」併催
「国際藝術家展 yokohama2026」

- 期 間：2026年9月2日(水)～9月6日(日)
10：00～18：00 最終日15：00まで
- 開幕式：2日11：00～ （自由参加）
- 場 所：横浜市民ギャラリー3階展示室
横浜市西区宮崎町6番地1
JR・市営地下鉄「桜木町駅」から徒歩10分。
「送迎車サービス」の詳細についてはこちらから。
<https://ycag.yafjp.org/about/timetable/>
- 問い合わせ：☎080-6608-9518（叶）

~~~~~

毎年、満柏画伯が尽力されて開催される展覧会です。ご都合が宜しければ、是非ご観覧ください。

杉本修羅能

A 級戦犯の見た夢

福島 裕子

終戦記念日に目黒の喜多能楽堂で新作能「巢鴨塚ハルの便り」を見た。現代美術作家 杉本博司が発案し、能楽師の川口晃平・大島輝久と野村萬斎らの協力の下に能を完成させ昨年初演したもの。

上演前に杉本博司がこの能をつくるに至った訳を語った。東京裁判のA級戦犯の一人、板垣征四郎が巢鴨拘置所で詠んだ漢詩を入手し、それを世に紹介する使命を感じたと言う。板垣征四郎は満州国設立の立役者だ。その長文の漢詩には大戦に至る経緯と理想の国の設立を目指すも夢破れ、刑死を前に国を思う彼の心情が綴られている。

杉本博司は骨董品の蒐集家としても知られる。この能で使われている面と衣装の一部は彼のコレクションだと言う。博物館級の名品らしい。

物語は巢鴨に住む者が歳末の市で満州国にまつわる品々を見つける所から始まる。やがて音曲に誘われるように、五族共和の華やかな舞が舞われる。中国からの旅僧が登場し巢鴨塚を見つける。通りがかった老人は、ここで七人の戦犯が処刑されたことを告げる。

土地の者が漢詩が書かれた巻物を見つけ、旅僧に朗読してもらう。見事なその詩が帝国軍人の書いたものと聞き僧は感心する。そこへ板垣征四郎の亡霊が現れ、満州国建国に至る過程、その後の日本のたどった道を語る。板垣の霊は修羅の苦しみを舞い、東亜の春を守る礎として塚のほとりに消えて行く。

杉本博司の活動は写真・建築・古美術蒐集・書・作陶と多岐にわたる。舞台芸術についても文楽「曾根崎心中」の演出、イエーツの「At the Hawk's Well (鷹の井戸)」のパリオペラ座での上演、野村萬斎と組んだ狂言「茸(くさびら)」の演出に続いてついに新作能までモノにした。次は何を見せてくれるのやら。意気軒高な78才だ。

## 【わんりいの催し】

♪ ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体力を抜いて気持ちよく発声しよう！  
声は健康のバロメーター！！

\*動きやすい服装でご参加ください。

- 会場：玉川学園コミュニティーC多目的室3
- 日時：9月15日（火）10：00～11：30  
10月20日（火）10：00～11：30
- 講師：Emme [エメ]（歌手）
- 会費：2,000 円（講師謝礼・会場費）
- 定員：15 名（原則として）
- 申込：☎042-735-7187（鈴木）

~~~~~

∞ ∞ わんりいの中国語勉強会 ∞ ∞

- 場所：鶴川市民センター
- 日時：毎週火曜日 14：00～16：00
- 講師：郁 唯（天津師範大学卒業）
- 会費：5500 円（会場費・講師謝礼）
- 定員：10 名（原則として）
- 申込：柳田 ☎090-4677-7793
e-mail:yanagita_hi@yahoo.co.jp



■定例会 代表宅

- ▼ 9月 10日（木）13：45～
- ▼ 10月 8日（木）13：45～

■‘わんりい’ 発送 三輪センター

- ▼ 10月号 10月2日（金）
- ▼ 11月号 未 定

☆☆ 編集後記 ☆☆

今年の7～8月は、台風や線状降水帯による豪雨が、日本各地を襲い、予想もしなかった都市部での大きな被害にも悩まされました。一方、ヨーロッパでは、猛烈な熱波や早魃が続きライン川やドナウ川など主要な河川が干上がり、生活に大きな支障をきたしています。近年、地球温暖化の被害が、水の過不足と言う面で、より具体的に、著しく表れるようになってきました。

少なくとも、多すぎても生物の生存を脅かす大切な水ですが、地球の水製造機と言われる各地の熱帯雨林にも人類が侵出し、特に南米では、熱帯雨林に無秩序で大規模な開発が行われ、既にあの大河アマゾンの水量が激減しているそうです。これからは、人為的な地球温暖化の被害が心配です。

~~~~~

‘わんりい’は、新入会をいつでも歓迎いたします。

年会費：1800 円、入会金なし

郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりい

10月以降の入会は、当年度会費 1000 円

■問合せ：044-986-4195（寺西）

Email：t\_taizan@yahoo.co.jp

## ‘わんりい’ 316 号の主な目次

|                     |    |
|---------------------|----|
| 薬膳のお話（16）.....      | 2  |
| 中国そぞろある記（11）.....   | 4  |
| 晩秋のカラコルムにて（17）..... | 6  |
| 甘肅省風土記.....         | 8  |
| 漢詩の心を日本語で（5）.....   | 10 |
| 『イムジン河』に寄せて.....    | 13 |
| 名邸を訪ねる「赤星鉄馬邸」.....  | 16 |
| みんなの広場.....         | 18 |
| ‘わんりい’の催し・お知らせ..... | 20 |